

# 辻おさむです。

日本共産党市政対策委員長

調査力

## 政策づくりにあたりまず 建築で鍛えた総合力

ものづくりの出発は基礎から——そして全体を総合的に組み立てる——建築でつちかった経験をいかし、日本共産党の市議団事務局長として、大型開発のムダや「同和」問題のゆがみにメスをいれてきました。くらしを守るために役立つ政策づくりをすすめます。

## 民主主義の出発点は 知らせ、 知っていただくこと

わかり  
やすく

「知っていただくことが、民主主義の出発点」と考えています。だから「わかりやすさ」がカギです。  
「住民が主人公」の政治に必要なのは情報公開です。市政の問題も「わかりやすく」お伝えしていきます。

思いやり

## 国会議員秘書、記者として 人に優しく、あたたかく

国会議員秘書、兵庫民報の記者時代、事故や災害、悪政に苦しむ人たちとふれあっただけに、人には優しくせずにはいられません。

阪神淡路大震災のときには60日間、尼崎の復旧・復興状況を知らせるニュースをだしつづけ、被災者を励ました。

## 政治にとりくむ原点

共同

## 「みんなで 力をあわせて」

西宮で働いていたとき「部落解放同盟」が市庁舎を占拠。これに抗議するデモに参加し「正義のためにがんばっている人たちがいる」と日本共産党員に感激し入党。

それ以来、「団結の力」が政治にとりくむ私の原点となりました。尼崎に、市民の共同の力をもっと生かして生きたいと思っています。

曲がったことは大きらい。  
スジを通します。

### ものづくりが大好き

京都で、4歳上の姉につづいて生まれました。小さいときから、絵を描いたり、手でものを作るのが大好き。そして自分ながらの新しい発見をさがす子どもでした。写真に興味を持ったのも中学生の頃です。

京都市立深草小・中学校を卒業し、京都市立伏見工業高校の建築科へ。

### 政策の土台は「人の生活」

そこで学んだのは、「建築」。  
デザイン、構造、力学、材料、各種の設備などを駆使する総合的なものですが、その目的は「人間が快適に安全に生活する」ためのもの。

だから、政策立案も「人間の生活」を土台にしたいと思っています。

### 労働条件、下請けいじめ に社会の矛盾感じる

卒業後、㈱新井組に入社。  
学生時代は政治に無関心でしたが、働くなかで労働条件や、下請けいじめの実態に、社会の矛盾を感じました。

社員のなかに「労働組合をつくろう」という動きを知り、学習会に参加。そのなか

で日本共産党を知るようになりました。感じていた社会の矛盾の解決方向がしめされていることに強い感銘をうけました。

### 尼崎と鹿児島

1978年から尼崎で日本共産党の活動を仕事に。この年に結婚した妻・恵子の父は、鹿児島県奄美大島の出身。尼崎と鹿児島の強いつながりを感じます。